

特集

慢性ウイルス性肝炎についてのお話

健康講話

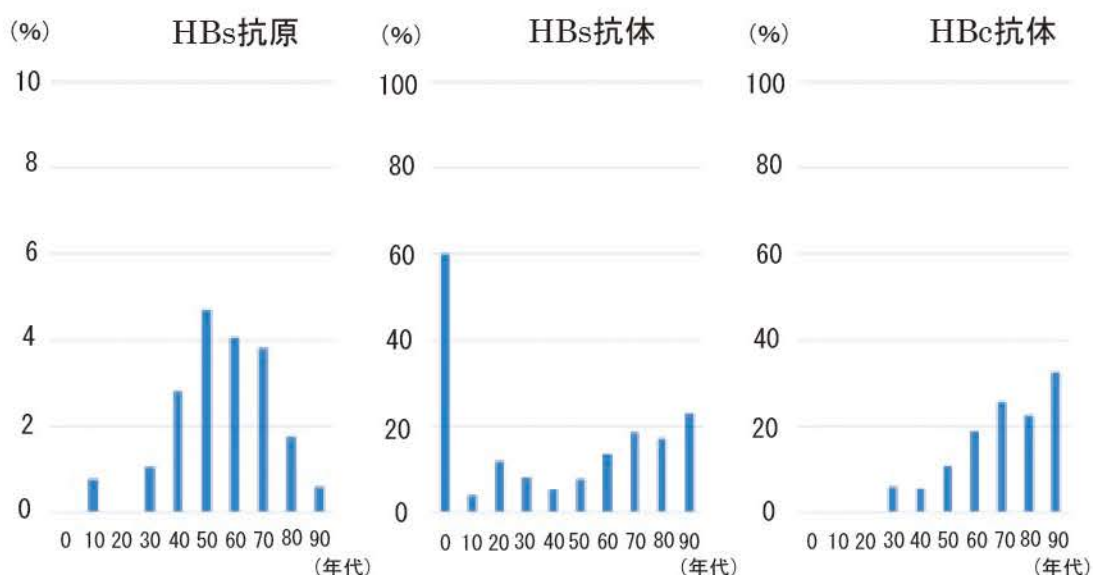
「食物アレルギー」とは



慢性ウイルス性肝炎にはB型肝炎とC型肝炎があり、いずれも肝硬変や原発性肝がんの主な原因となっています。B型肝炎は、かつては出産時に母から子へ感染する母子感染が主でしたが、1986年に妊婦へのB型肝炎検査が導入され、さらに

2016年からはユニバーサルワクチン接種が開始されたことで、新たな感染者数は大きく減少しています。しかし、日本では高齢層での感染率が比較的高く、50歳以上では20%以上が既往感染者とする報告もあります(表1)。

【表1】 年代別のB型肝炎マーカー陽性率 (当院2019年度)



HBs抗原陽性の一部の方が活動性肝炎です。HBs抗体陽性者は既感染かワクチン接種後の方となります。10歳未満の方のHBs抗体陽性率が高いのはワクチン接種によるものです。ワクチン接種後以外の方で、いずれかのマーカーが陽性であればB型肝炎感染者となります。

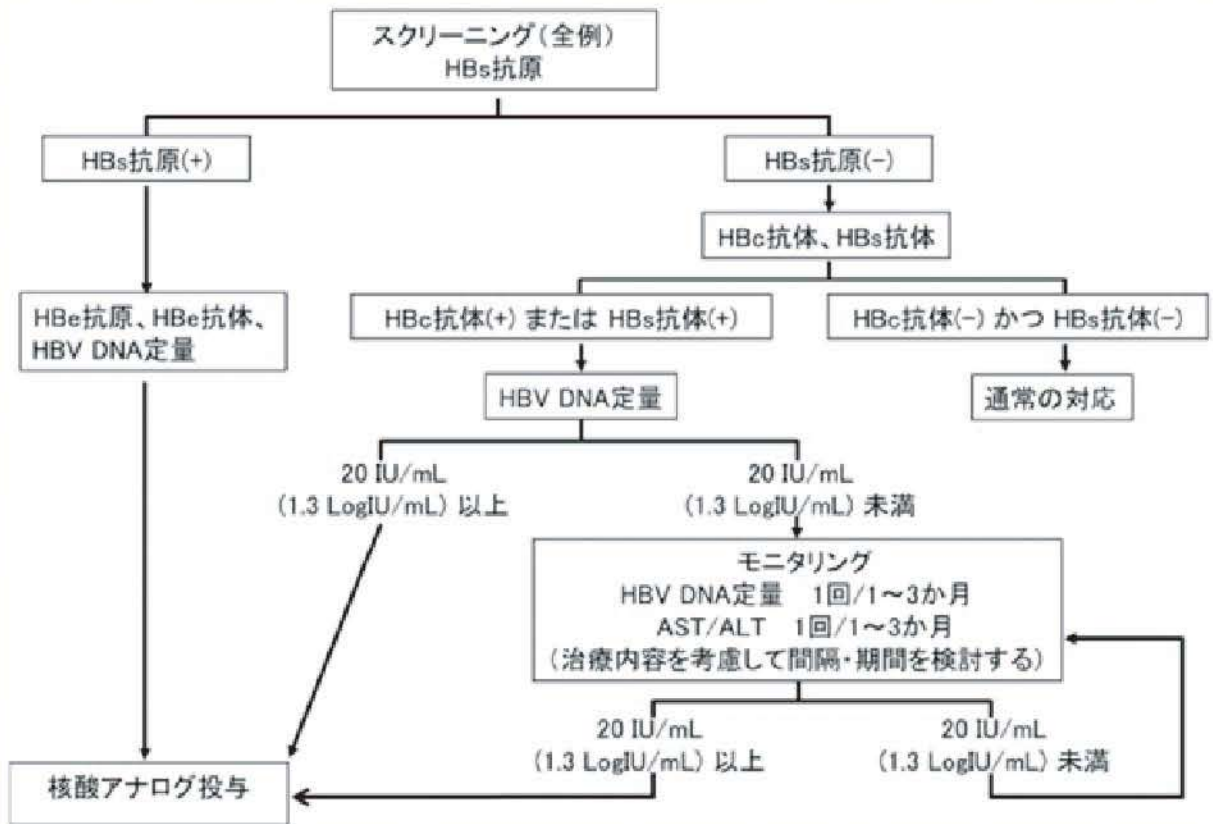
B型肝炎

B型肝炎は、ウイルスの増殖が活発で肝炎が持続している場合に治療の対象となります。治療には核酸アナログ製剤という内服薬を用い、ウイルスの増殖を抑えることで病状の進行を防ぎます。多くの患者さんで血液中のウイルスDNAを検出感度以下に抑えることが可能ですが、ウイルスを完全に体内から排除すること

は難しく、長期的な治療が必要となります。また、既往感染の方で通常は治療を必要としない場合でも、抗がん剤治療や免疫抑制療法を受けるとウイルスが再活性化し、重篤な肝炎を引き起こすことがあります。そのため、これらの治療を行う際にはガイドラインに沿った適切な対応が重要です(表2、左頁の上)。

【表2】

B型肝炎の対策



引用元：免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン 日本肝臓学会（一部改変）

C型肝炎

C型肝炎は血液や体液を介して感染し、20～30年以上という長い年月をかけ徐々に肝臓病が進行します。その間に症状がある方は少なく、気がついたときには進行した肝硬変となっているため、肝臓は「沈黙の臓器」といわれています。2014年以降、内服のみでウイルスを排除できる直接作用型抗ウイルス薬（DAA）が登場し、治療が劇的に進歩しました。現在では、2～3ヶ月の内服治療により、ほとんどの患者さんでウイルス排除が可能と

なっています。高齢の方や基礎疾患がある方でも、安全に治療を受けられるようになっています。このように治療成績が向上した現在では、未診断・未治療の患者さんを見つけ、適切な治療につなげることが重要な課題となっています。日本では肝炎対策基本法に基づき、検査や治療費の助成が行われています。例えばC型肝炎の治療薬は高額ですが、医療費助成制度を利用することで、自己負担は月額1万円程度に抑えられます。

肝炎ウイルスの診断は血液検査で行われ、多くの場合、一生に一度の検査で十分とされています。肝機能異常があるときは必ず検査されますが、健診や人間ドック、献血、手術前検査などで調べる機会もありますので、ご自身の感染状況を把握しておくことが大切です。また、医療機関は検査結果について適切に説明する責任があります。慢性ウイルス性肝炎は無症状で進行することが多い一方で、治療を行うことで予

後を大きく改善できる病気です。感染の有無が不明な方、過去に輸血歴のある方、健康診断で肝機能異常を指摘された方は一度医療機関で相談することをお勧めします。なお、B型肝炎およびC型肝炎はいずれも主に血液を介して感染しますが、日常生活における食事や会話、入浴などで感染することはありません。正しい知識を持つことで、不必要な不安や偏見を防ぐことも大切です。



「食物アレルギー」とは (3)

小児科科長 高田 数馬 先生



4月号では、「食物アレルギー」とは、「主に炎症によって破壊された皮膚・鼻粘膜・気管・消化管の壁から、食物が不法侵入してしまい、樹状細胞・T細胞に誤認識された結果、食物なのにアレ

ルゲンとして誤認識されてしまい、本来は寄生虫を攻撃するためのIgEが食物を攻撃するようになってしまう現象」と説明しました。

食べ物は、口以外の炎症がある場所から侵入すると、アレルギーになる

食物アレルギーの治療を考える上で最も重要なのは、「なぜ、どこで、食べ物が異物として誤認識されてしまうのか」という根源的な問題です。

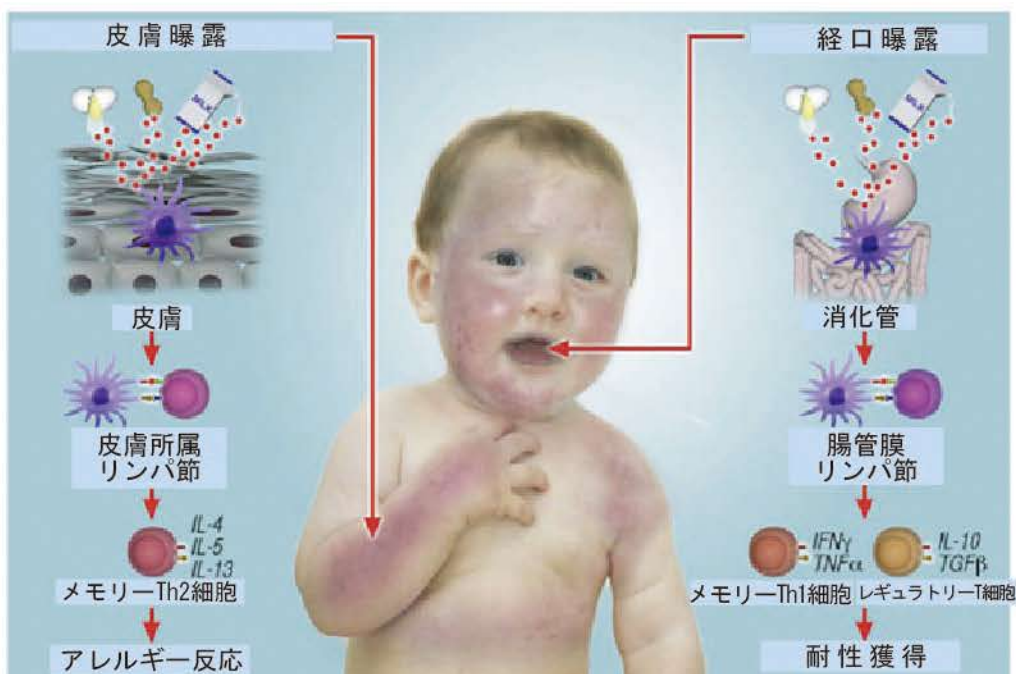
キングカレッジオブロンドンのGideon Lack教授の、「二重抗原暴露仮説」という超有名な仮説があります。この仮説を分かりやすく一言で説明すると、「**食べ物は、炎症がある皮膚から不法侵入してくると異物だと認識されて免疫の攻撃対象となり食物アレルギーを発症するが、口から正しく入ってくると異物とは認識されずに免疫に攻撃されない**」という仮説です。

この仮説が生まれた背景として、ピーナッツアレルギー患者は死亡を含む重症者が多く、アメリカやイギリスでは妊娠中や乳幼児期のピーナッツ摂取を避けることが推奨されていました。ところが、Gideon Lack先生が、アメリカやイギリスでは、乳幼児期からピーナッツを多く摂取するイスラエルやフィリピンと比較するとピーナッツアレルギー患者が10倍以上もいることを報告しました。「ピーナッツを食べている国の方がピーナッツアレルギーが少ない＝発症が予防されている」ことを示すこの報告は、それまでの食物アレルギーの常識からは完全に真逆の結果であり、全世界に衝撃が走ったのです。

約20年前までは、食物がアレルギーだと誤認識されてしまう現場は腸だと考えられていました(経腸感作説)。「問題が起きているのは腸なのだから、治るまでは、腸にアレルギーを入れるな!」と世界中で完全除去が正しいと信じられていました。しかし、「食べることは食物アレルギーの発症の主原因ではない」という現実世界の結果から、「腸ではないとしたらどこで誤認識が起きているのか?」という問題が再検討されることになり、その後の多くの研究から、アレルギーの不法侵入経路として皮膚(経皮感作)が最も重要だと考えられるようになったのです。そして、現代では、鼻粘膜や気管といった気道(経気道感作)も重要だと考えられるようになりました。

人体が食物をアレルギーとして誤認識してしまった場合は、「この食べ物は、異物ではなく、栄養源なんです」と誤解を解く必要があります。

そのためには、まずは、口以外から食物が不法侵入してくるのを止める必要があります。つまり、食物アレルギーを治すためには、皮膚に炎症があるアトピー性皮膚炎、鼻粘膜に炎症があるアレルギー性鼻炎、気管に炎症がある気管支喘息を先に治療する必要があるのです。



すずきこどもクリニック

院長 鈴木 大雅



診療科目 小児科

診療時間

	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	/	○	○	○
14:00~17:30	○	○	/	○	○	/

*14:00~16:00は予防接種及び乳児健診

休診日 水曜日、日曜日、祝日

連絡先 千葉県我孫子市布佐1876 TEL 04-7189-6780

当院は2007年6月に我孫子市内JR成田線新木駅より徒歩5分の所に開院いたしました。一般小児、予防接種、乳児健診を行う小児科単科のクリニックです。

開院当初より、入院治療が必要な病児や小児外科疾患をいつも快く受け入れて下さり、貴院には大変お世話になっております。

我孫子市内には入院治療や専門外来を行える総合病院は無く、夜間小児救急が受け入れ可能な医療機関もありません。貴院と我孫子市が連携協定を結んでいただいているおかげで、我孫子市の小児は充実した医療を受けることができとても感謝しております。今後もよろしくお願いたします。

お薬ふくろう便

当院の薬剤部で作成している「お薬ふくろう便」から抜粋した内容を掲載します。今回は胃炎・胃潰瘍の薬に関する疑問にお答えします。



Q「胃炎・胃潰瘍」と言われ、胃薬がでましたが、症状が消えたら胃薬を飲むのをやめてもいいですか？

Aやめてはいけません！症状が消えても胃炎や胃潰瘍は治っていないことがあります。自己判断で薬を止めてしまうと再発したり、悪化する可能性があります。医師の指示を守り、しっかり服用しましょう。

Q解熱剤や痛み止めをもらうときに胃薬と一緒にでているのはなぜですか？

A解熱剤や痛み止めの中には、胃粘膜を傷つけることにより、胃に負担がかかる薬があります。このため、胃炎や胃潰瘍を予防する目的で一緒に服用します。

Q抗生物質と胃薬と一緒に出た際、「時間をあけて飲むように」言われました。なぜですか？

A胃薬等の中には金属を含むものがあります。これらの薬剤と抗生物質と一緒に飲むと、胃薬等

に含まれている金属と一部の抗生物質で相互作用をおこし、抗生物質の効果が弱くなることがあります。そのため、抗生物質と時間をあけて飲むことがあります。

【金属を含むクスリ(2025年3月現在採用薬)】

- ・スクラルファート(アルミニウム)
- ・ポラプレジンク(亜鉛)
- ・SM散(カルシウム・マグネシウム)
- ・デノタス(カルシウム・マグネシウム)
- ・酸化マグネシウム(マグネシウム)
- ・マグミット(マグネシウム)
- ・ピートル(鉄)
- ・アドソルビン(アルミニウム)
- ・クエン酸第一鉄Na(鉄)
- ・インクレミン(鉄)
- ・リオナ(鉄)
- ・乳酸カルシウム(カルシウム)
- ・ポリフル(カルシウム)
- ・沈降炭酸カルシウム(カルシウム)

*「お薬ふくろう便」は薬局窓口の横に置いてあります。

より安全で質の高い放射線治療を

～ 更新された放射線治療装置のご紹介 ～

患者さんの負担が軽減し治療精度が向上

当院では2026年4月より、Elekta社製の高精度放射線治療装置VersaHD（図1）を導入し、より安全で質の高い放射線治療の提供を開始しました。VersaHDは短時間で正確に照射でき、患者様の負担軽減と治療精度の向上に寄与します。

図 1



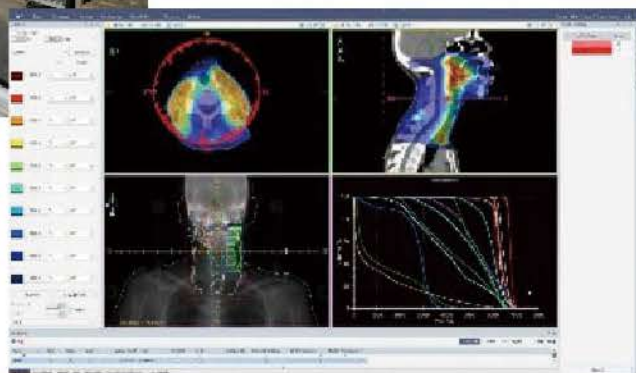
最適な治療計画

治療計画では、治療計画CT装置Aquilion Exceed LB（図2）により高精細CT画像を取得します。その画像をもとに治療計画装置 Monaco（図3）を使用し、放射線治療医が標的部位と周囲臓器のバランスを考慮して最適なプランを作成します。線量計算には、モンテカルロ法と呼ばれる高精度な手法を用いています。

図 2



図 3



安全で再現性の高い照射

品質管理として、毎朝の始業前に myQA Daily (図4) で線量や機器状態を確認し、装置が適切に動作していることを確認します。さらに治療開始前には ArcCHECK (図5) による患者別検証を行い、計画線量と実測線量の一致を確認することで、安全で再現性の高い照射を保証しています。

図 4



図 5



照射状況をリアルタイムで監視

治療中は操作室(図6)から、患者様の状態や照射状況をリアルタイムで監視しながら進めます。また、光学式体表面トラッキングシステムCatalyst(図7)を用いて体表面を非接触で読み取り、体動や呼吸による変化を検知・補正することで、より安定した照射を実現しています。

図 6



図 7



放射線治療室のスタッフです。
ご不明な点などがありましたら
お気軽にお声掛けください。

禁煙外来のご案内

対象の方

- ① (ブリンクマン指数) 1日の喫煙本数×喫煙年数=200以上
- ② 直ちに禁煙することを希望していること

禁煙外来の内容

- ・ 内科外来で医師の診察、呼気中一酸化炭素濃度測定
- ・ 飲みクスリ(チャンピックス)の処方
- ・ 治療期間：3ヶ月間(通院回数は5回)

禁煙外来の診療時間

- ・ **完全予約制**
- ・ 毎週金曜日 新患(初診)：13時30分～ 再診(2回目以降)：9時～13時

費用の目安

- ・ 5回通院分の診察、処方、クスリ代(3割負担の場合)：約2万5千円

禁煙外来の予約方法

- ・ 予約センターへご連絡ください。TEL 050-5838-9517
- ・ 内科外来窓口でも予約を受付ます。「禁煙外来の予約希望」とお伝え下さい。

祝日の一部を開院します

令和8年度も祝日の一部を開院します。全ての診療科で平日と同じ診療、検査を行う予定です。外来受診の際にご注意いただくようお願いいたします。

開院日 7月20日(月) 8月11日(火)
10月12日(月)

予約センターの電話番号が変わりました

050-5838-9517 **AI電話** AI電話の詳細については
ホームページ等でご確認ください



「JAとりで通信」のアンケートにご協力をお願いします

右のQRコードからアンケートを開きお答え頂くようお願いいたします。



今月の表紙

B型C型肝炎の検査は一生に一度でよいものです。まだの方は検査を受けましょう。受けたことがある方はご自身の検査を把握しておくことが大切です。